

消防団とは

消防団は市町村の非常備の消防機関であり、その構成員である消防団員は**本業を持ちながら、権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員**として、「自らの地域は自ら守る」という精神に基づき、消防防災活動を行っています。

その活動は消火活動のみならず、地震や風水害等多数の動員を必要とする大規模災害時の救助活動、避難誘導、災害防御活動など非常に重要な役割を果たしています。さらに、平常時においても、住民への防火指導、巡回広報、特別警戒、応急手当指導等、地域に密着した活動を展開しており、地域における消防力・防災力の向上、地域コミュニティの活性化に大きな役割を果たしています。

消防団の特性

消防団の構成員である団員は、自らの意思に基づく参加、すなわちボランティアとしての性格も併せ有しています。

消防団は、大規模災害時をはじめとして、地域の安全確保のために大きな役割を果たしています。例えば、阪神・淡路大震災において、日頃から消防団を中心に行政機関と住民による自主防災組織との緊密な連携があった淡路島の北淡町（当時）では、激震地であったにもかかわらず、被害は最小限に抑えられました。これは、消防、警察、自衛隊などが本格的に機能する前段階などにおいては、住民自らが主役となって防災活動を行うことの重要性を示しています。



特性 1 地域密着性

構成員である団員は、地域の住民であることが多く、地元の事情等に通じ地域に密着した存在。

特性 2 要員動員力

団員数は、全国で78万3,578人（令和4年4月1日現在）と、常備職員（消防士）の約5倍の人員。

特性 3 即時対応力

団員は、日々技術向上に努め、教育訓練に励み、災害発生時には即時に対応できる能力を保有。

消防団の活動

消防団は、消防本部や消防署と同様、消防組織法に基づき、それぞれの市町村に設置される消防機関です。地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担います。

また近年は、女性の消防団への参加も増加しており、特に一人暮らし高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及指導などにおいて活躍しています。

平常時の活動

- ① 防火指導・啓発活動・高齢者訪問
- ② 応急手当の普及活動
- ③ 広報活動

災害時の活動

- ① 消火活動
- ② 救助活動
- ③ 避難誘導

消防団員の報酬

多くの市町村で年額報酬や災害活動または訓練に出勤した際の報酬などが支給されます。また、以下のような待遇もあります。

公務災害補償

公務上の災害によって被った損害については公務災害補償制度に準じて補償されます。

退職報償金

消防団員が退職した場合、市町村から慰労金の性格として退職報償金が支給されます。

消防団へ入団するには

① お近くの消防団を探す

「消防団オフィシャルウェブサイト」から探してください。

② 消防団へ問い合わせる

ご希望の消防団に電話・メール等でお問い合わせください。

③ あなたも消防団員に!

案内に従い、入団手続きが完了すれば、晴れて「入団」となります。

[お問い合わせ先]

消防団への入団手続きについて、詳しくはお問い合わせ先へご連絡いただくか、消防団オフィシャルウェブサイトをご覧ください。

消防団に関する詳しい情報はWEBで 検索 <https://www.fdma.go.jp/relocation/syobodan/>



「和牛消防団」
動画公開中

FDMA 総務省消防庁
住民と共により Fire and Disaster Management Agency



消防団員募集中

FDMA 総務省消防庁
住民と共により Fire and Disaster Management Agency

一般向け



消防団から広がる地域の輪

機能別消防団員・分団制度

より多くの方に参加いただくために、消防団には、機能別消防団員・分団という制度があります。それぞれの能力やメリットを活かしながら、特定の消防団活動や時間の許す範囲での活動ができます。

機能別消防団員

仕事や家族の都合等で全ての活動に参加することが困難な場合の活動方法があります。

火災予防・広報団員

予防団員として、住宅防火訪問・高齢者訪問や救命講習の実施を中心に活動したり、広報団員として音楽隊などに入り、消防の諸行事や自治体主催のイベント等で消防団をPRしたりする活動を行っています。

OB団員

消防団を引退した方が、その豊富な経験を活かして消防団の活動に携わることができます。体力の問題や仕事の都合で訓練等に参加できなくなってしまっても、無理のない範囲で活動できます。

機能別消防分団

災害時や特定の活動のみに参加することも可能です。

大規模災害のみ活動する分団

大規模災害時のみに活動を限定しており、通常の消防団員だけでは十分な対応が取れない場合に活躍します。

バイク隊

車両が通れない場所への救援物資の運送や、震災時の情報収集など、バイクの機動力を活かした場所で活躍しています。

ドローン隊

主に災害時の被害状況把握や行方不明者の捜索等の活動を行っています。人が近づけない危険箇所や、目に見えない場所などの素早い状況把握を行うことができます。

消防訓練制度

消防団員の教育訓練は、各消防本部、消防署や消防団における教育訓練のほか、国においては消防大学校、都道府県等においては消防学校において実施されており、国、都道府県、市町村等がそれぞれ機能を分担しながら、相互に連携して実施されています。

消防団員に対する教育訓練の種類

消防学校における教育訓練の基準として、「消防学校の教育訓練の基準」が定められています。

この中で定められている教育訓練の種類には、基礎教育（従来の普通教育）、専科教育、幹部教育及び特別教育があります。

- ①基礎教育** 消防団員として入団後、経験期間が短く、知識・技能の修得が必要な者を対象に行う基礎的な教育訓練をい、基準上の教育時間は24時間とされています。
- ②専科教育** 現任の消防職員及び一定期間の活動経験を有する消防団員を対象に行う特定分野に関する専門的な教育訓練をいいます。
- ③幹部教育** 幹部及び幹部昇進予定者を対象に行う消防幹部として一般的に必要な教育訓練をいいます。
- ④特別教育** 上記に掲げる以外の教育訓練で、特別の目的のために行うものをいいます。



消防団員インタビュー

桑畑拓実さん

所属：尼崎市消防団園田第5分団
職業：製造業

20歳で消防団に入団し、3年ほど活動している桑畑さんに、充実した活動内容について聞いてみました。

地域の密なつながりから消防団へ

会社の社長や専務が消防団員だったことから、声をかけられ消防団に入団しました。お手伝いという形で訓練を見学したときに、団員の方々がものすごい集中力で活動に打ち込む姿を見て、自分も参加したいと思うようになりました。

普段は月に1～2回、消火栓の点検や放水訓練などを行うほか、時期に応じて土のう積みや年末警戒といった行事も実施しています。また、消防団の方々は熱い方が多く、分団同士で消防用機械器具の点検やポンプ操作の技術を競うような訓練大会も全力で取り組み、よい成績を収めています。



訓練で身についた災害時の行動

団員の方々はみんな個性的で、やることはきっちりやりながらも、冗談を言い合うような関係です。最年少の私に対しても上からものを言ったりすることはなく、いつも誉めてくれて、失敗してもおおらかに見守ってくれます。おかげで、訓練のときも臆せず前に出られるようになりました。

実際の火災現場でも、「放水するから準備して」という一言で、自然と体が動いていました。必死で対応していたので記憶があまりないのですが、それでも放水できていたのは、常に前向きに訓練に取り組んでいたからだと思います。

もっと仲間を増やしていきたい

職場でも常に防災意識を持ち、消防団員としても高いモチベーションで活動している先輩たちの背中を見てきているので、自分もその一員としてもっと経験を重ねていきたいです。また、コロナ禍で中止を余儀なくされていましたが、ようやく学校での防災イベントなども再開されてきているので、自分より若い世代と同世代、さらに上の世代をつなぐような存在になりたいと思っています。

災害はいつ起こるか
わかりません。
地域みんなを守るため
一緒に頑張りませんか？

明るく前向きに
活動していると
生き生きするんですね！



裏面には、消防団の基本情報やお問い合わせ先などがあります。ぜひご覧ください。